

(仮称) 大和市商業戦略計画策定にかかる意見交換会

実施状況及び意見の要旨

1 意見交換会の日程・参加人数

対象者	日程	参加人数	備考
市民・商業者等	11月5日	2人	林間学習センター
	11月12日	2人	生涯学習センター
	11月14日	4人	渋谷学習センター
商工会議所関係	10月15日	7人	大和駅周辺商店会会長会
	10月17日	3人	会議所事務局
	10月25日	11人	会議所商業部会・支部長会
市議会議員	10月3日・4日・7日	24人	各会派ごとに実施
合計		53人	

2 主な意見等 (簡単な質問や感想等は掲載していません)

項 目		件 数
現状の商業の課題	商店街に対する市の支援	3
	商店街全体として	9
	駐車場・駐輪場	2
	ポイントカード	1
	宅配・ネット販売	1
	後継者問題	1
	イベント	3
	街路灯など	2
	大和駅周辺	2
	商業戦略計画について	6
今後の商業振興のあり方	市の役割	15
	空き店舗対策	2
	人材育成	2
	街路灯など	2
	商店街の取り組み	7
	大和駅周辺	2
合 計		60

①現状の商業の課題

●商店街に対する市の支援

- ・商店街を活性化するには、商店街の自助努力が必要である。自助努力によってどのように活性化につなげていくかが、市の課題である。
- ・空き店舗対策に市が介入するのは難しいが、アドバイス程度は必要である。
- ・このままだと商店街がなくなってしまうという意識が必要であり、市がもっと補助金の活用をして、商店街がなくならないようにしてほしい。

●商店街全体として

- ・市民は商店街に期待している。元気になってほしいと思っている。
- ・市民は、買物は大型店に行き商店街には行かなくなってしまった。このような状況で市民を商店街に向けるのは非常に難しい。
- ・自分の地域の商店街が暗いと、地域全体のイメージが悪くなる。
- ・これから高齢化社会になり、より身近にある商店街は必要となる。
- ・商店街から離れた場所にある店も会に加入してもらっている商店会もある。商店会のそういう努力が必要である。
- ・商店会への加入率低下が問題となっている。商店会に加入してもらうには、商店会活動のメリットを示す必要がある。
- ・個店の課題を検討しないと、商業の活性化や魅力が生まれない。
- ・商店街から大型店に移った客を取り戻そうとしても、大型店と競争するのは難しい。
- ・今、商店街は市民のもの、社会のものであるため、商店街の店は自分の都合だけでやめてはいけない。

●駐車場・駐輪場

- ・大型店は駐車場が無料であり、商店街は有料駐車場を利用することになる。商店街は自転車も止められない点でもハンデがある。
- ・商店街で駐車場を確保するのは無理なため、市は駐車場の共同化への助成やアドバイス等を行う必要がある。

●ポイントカード

- ・販売促進の意味から、ポイントカードは必要である。

●宅配・ネット販売

- ・消費者が大型店やネット通販で買物するなど、時代の流れで商店街の役割が変化していることを商店街は認識する必要がある。

●後継者問題

- ・店主の後継者問題への意識が低く、将来のことを考えていない。このままだと商店は自然消滅する恐れがある。

●イベント

- ・イベントの目的が、イベントを実施することではなく、お客さんを集めることであることを市も理解する必要がある。
- ・イベントに来てみると周辺を回遊していないのは、近くに魅力的なお店がないからである。
- ・イベントを行っても個々の店に客が来ず、売り上げにつながらないことから、商店街活動に熱意がなくなり、イベント自体を段々やめていくことになる。

●街路灯など

- ・商店街のアーケードは老朽化するため、いずれ維持するのが困難になる。
- ・商店街の街路灯は防犯の意味からも、電気料金の100%補助を検討する必要がある。

●大和駅周辺

- ・大和駅のプロムナードでイベントを行っても、周辺商店街に人が回遊しない。
- ・大和駅東側第4地区の整備に伴って周囲の環境を整備するなどの計画がない。

●商業戦略計画について

- ・アンケート調査の回答で相反する内容の回答があった場合は、それらを整理する必要がある。
- ・来街者のアンケート調査は、大和駅以外の駅でも実施してほしい。
- ・大和市は南北に長く、それぞれの商店街によって事情が異なるため、各々が課題を把握するべきである。
- ・全体的なビジョンを作らないと、商業活性化につながらない。ハードを整備するだけでは活性化できない。
- ・アンケート調査の回答者は、商店会の中のチェーン店を商店会員と認識していないため、アンケート調査の結果が異なってしまう。
- ・商店街の活性化が難しいことは承知しているが、どういう姿の商店街にするか、この計画にイメージを示す必要がある。

②今後の商業振興のあり方

●市の役割

- ・市として、やる気のあるところを支援する考えだが、やる気のない店にもやる気を持たせることが必要である。
- ・まちに人の流れを呼ぶためには「3つのなみ」がある。ひとなみ、まちなみ、いとなみが必要である。
- ・コンサルタント等によって商店街の良い姿や活性化計画を描くことが出来ればよい。
- ・商店街が自助努力するよう、市の支援が必要である。
- ・どこか1か所の商店街を活性化のモデルケースとして重点的に取り組み、他への波及効果を狙うという方法もある。
- ・市民にもっと商店街を知ってもらおう工夫をするよう、市は商店街を誘導した方がよい。
- ・コミュニティバスとの連携、商店街マップづくり、コンパクトシティの考え方等による商業の活性化を検討すべきである。
- ・やる気がある人の取り組みを支援したり、補助金を活用してほしい。
- ・市が個々の店をPRすることは難しい。
- ・ビジョンを示して商店街の合意形成を図るのは市の役割である。
- ・情報収集能力は行政の方が高いので、他市の活性化等の事例を商店街に提供する必要がある。
- ・今後の高齢化社会に向け地元になくてもならない商店街になるように政策で行うべきである。
- ・駅ごとに商業の特色を出し、駅ごとの計画を策定する必要がある。
- ・この計画は5年計画なので具体的な目標を定めると共に、目標到達後のことも今から考える必要がある。
- ・景気の変動や災害の発生等を踏まえた長期的なビジョンは必要である。

●空き店舗対策

- ・空き店舗は市の公共施設に活用するのではなく、商店街で活用を考えるべきである。
- ・高齢者の居場所づくりや子育て支援の場所を商店街で確保するなど、空き店舗での取り組みを検討するべきである。

●人材育成

- ・平塚市のように若者塾などを実施する必要がある。
- ・商店街の活性化にはリーダーの育成が必要であり、商店街ごとにリーダーが数人いると活性化が進む。

●街路灯など

- ・現在、電球の交換は補助対象になっていないが、電球の交換も補助対象にしてほしい。
- ・街路灯の LED 化の費用について、市から更なる助成があれば、商店街のモチベーションも上がる。

●商店街の取り組み

- ・大型店にない地域に根ざした特徴のある商店街が必要である。
- ・商店街が努力すべき。知恵を使うべきである。
- ・商店街の中に子どもや高齢者の居場所を作る必要がある。
- ・これまでの店主の考えではなく、今の若い人に合った消費者視点に立った商店街づくりや消費者へのアプローチの仕方を個店が工夫する必要がある。
- ・消費者が安心して買物ができる環境を作らないといけない。
- ・やる気のある若手、商売の転換を考えられる人に商売の場所を提供することにより、小さい店でも市外から客が来るようになる。
- ・商店街の自助努力がないと、何も進まない。

●大和駅周辺

- ・大和駅のプロムナードは、アーケードを作っておしゃれな商店街にして生まれ変わった形にして活性化するのも一つの方法である。
- ・大和駅東側第4地区の再開発で大きく変わる今が商店街も変わるチャンスである。

各会場では、さまざまなお意見等をいただき、ありがとうございました。
(仮称) 大和市商業戦略計画の策定に向けて参考とさせていただきます。